

上 田 勉

**2月13日午後11時8分頃、福島県沖で地震(震度6強 マグニチュード7.1と推定)**

福島県沖を震源とする地震がありました。楡葉町では震度6弱でした。幸いに津波はありませんでした。気象庁の会見では、この地震は3・11東日本大震災の余震とのことでした。私の仮住まいは雇用促進住宅で、鉄筋5階建ての3階です。1分間ぐらい、大きな揺れがありました。被害は部屋の中では、本棚の本が散乱した程度でした。

私は直ぐに職場の人に電話をしたら、今のところは自宅待機とのことでした。その後、役場の職員全体に参集がかかりました。私はそのメールを見ないで、翌日(日曜日)の8時30分に職場へ行ったら、多くの職員が仕事をしていました。動員は午前11時30分で解除されました。幸い、大熊町では、大きな被害はありませんでした。

役場の直ぐ傍には、単身者用の職員寮がありますが、多くの職員はいわき市(片道約1時間30分)や郡山市(片道約2時間)かけて通勤しています。夜中に役場へ参集した職員には敬意を表します。しかし、見方を変えれば、万が一災害が起こっても多くの職員が役場に参集するまでには、1時間30分の時間がかかってしまうということです。

福島の地震速報で、必ず報道されるのが、福島第一原発と福島第二原発が地震によって、安全が保たれているかどうかです(1に地震・2に原発・3に津波の心配)。第一原発と第二原発は約40年かけて廃炉にする計画ですが、それまでの期間、使用済み核燃料棒を冷却保存しなければなりません。

地震の被害は、相馬市や南相馬市が大きかったです。特に、屋根瓦がずれる被害が多かったです。南相馬市では、14日に被害にあった町民にブルーシートを約2千枚配布しました。しかし、15日(月)の弾丸低気圧の太平洋沖の通過によって、多くのビニールシートが剥がされてしまいました。

**使用済み核燃料プール、地震で少量の水あふれ 福島第一原発**

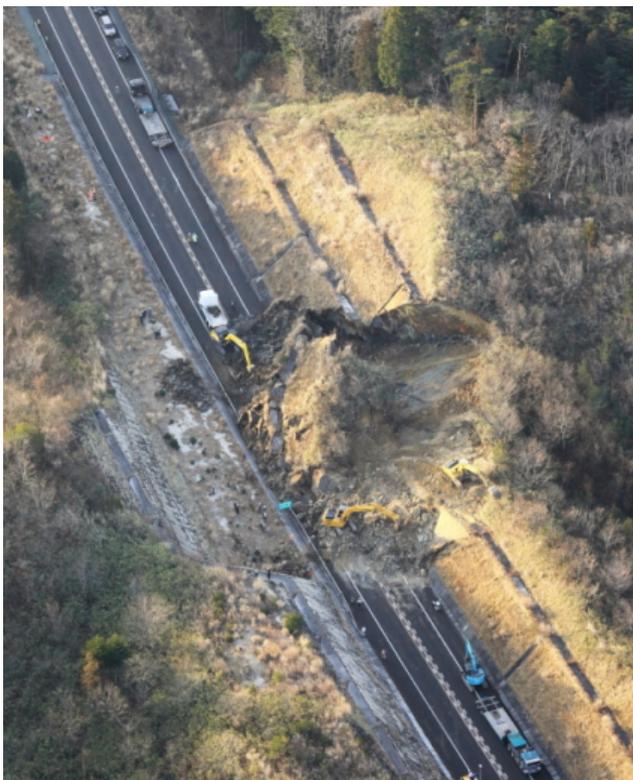
「東京電力は2月14日、福島第一原発(福島県大熊町・双葉町)5・6号機の原子炉建屋上層階にある使用済み核燃料プールの近くで、水たまりを確認したと発表した。13日深夜に起きた最大震度6強の地震で冷却水がプールからあふれたとみられる。福島第二原発(同県富岡町・楡葉町)の1号機でも燃料プールから少量の水があふれた。いずれも建屋外への流出はなかったとしている。

東電によると、燃料プールは5・6号機の建屋5階にあり、水たまりは4カ所で見つかった。さらに、1～6号機の使用済み燃料を保管する共用プールでも1カ所に水たまりがあったという。いずれも流出はなく、周辺の放射線量を測定するモニタリングポストの値にも変化はなかった。」(「朝日新聞」21年2月14日付け)

2月13日午後11時8分ごろ、福島県沖を震源とする地震があり、同県中通りと浜通り、宮城県南部で最大震度6強を観測した。震源の深さは約60キロ、規模を示すマグニチュードは7.1と推定される。



「© 朝日新聞社 地震の影響で冷却水が核燃料プールからあふれたとみられる東京電力福島第一原発の5号機（手前）と6号機=2021年2月14日午後2時23分、朝日新聞社へりから、加藤諒撮影」



【福島県相馬市】崩れた土砂が道路をふさいだ福島県相馬市の常磐自動車道=14日午前7時9分（「福島民報」）

◇何人かの方から、安否の電話をもらいました。本当に心強かったです。